



報道関係者各位

オープン2週間で10万人が来館！ 茨木市の新施設「おにクル」

令和5年11月26日に開館を迎えた茨木市の文化・子育て複合施設「おにクル」が、12月9日、オープンから2週間で来館者数10万人を突破しました。

おにクルでは、開館日に想定を大きく上回る15,000人が来館しましたが、翌日以降も図書館「おにクルぶっくぱーく」や屋内子ども広場「もっくる」を中心に多くの人で賑わったほか、連日、豊富なオープンスペースを活用し、市民団体による活動が積極的に展開されたことで、平日に1日5,000人～6,000人、土日にはそれぞれ10,000人を超える来館がありました。

この日の午前10時45分頃に10万人目の来館者となったのは、茨木市内に住む川棚（かわたな）さんご一家4人です。開館してから3回目の来館、この日はおにクルぶっくぱーくに来られたという川棚さんは、10万人目と告げられ驚いた様子でした。

川棚さんには、福岡洋一市長から記念品として、おにクルグッズと10万人目の来館者のためだけに作られた「おにクルドリームチケット」が授与されました。このチケットは、ホール、図書館、子育て支援、市民活動、プラネタリウムなどの多様な機能と、芝生広場やテラス、屋上広場、和室など豊富な施設を有するおにクルでやってみたい事を叶えられる特別券となっています。

川棚さんは、チケットの使い道について「おにクルでは色んなことができそうなので、まずはたくさんアイデアを出したいです。こどもが家で電子ピアノを弾くので演奏会をするのもいいかもしれませんね。」と、おにクルで広がる夢の実現に向けて声を弾ませていました。



福岡市長から記念品を受け取る川棚さんご一家

■福岡市長コメント

想定を越える多くの方に来館いただき嬉しく思います。これからもみんなでおにクルを育てていきます。



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

【本件に関する問合せ先】

市民文化部共創推進課長

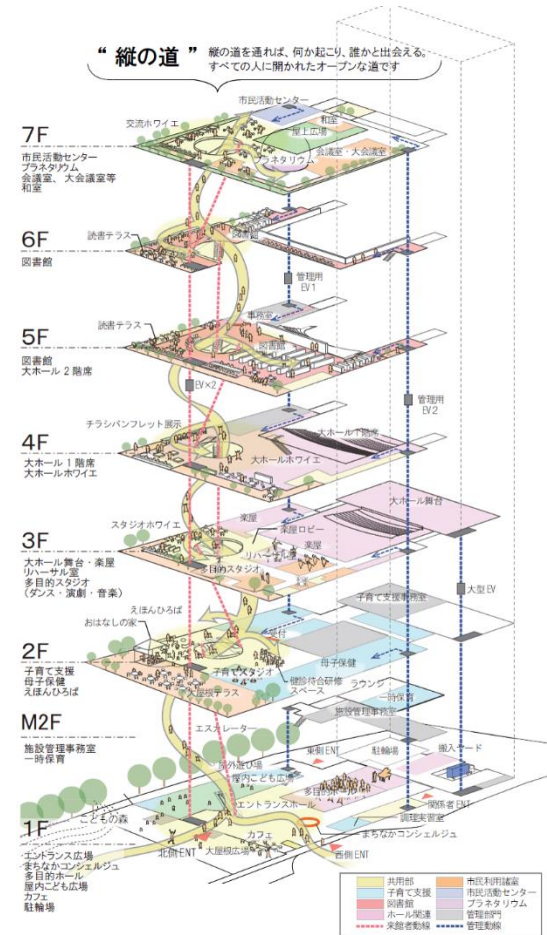
電話：072-631-0277

【参考】文化・子育て複合施設「おにクル」の概要



おにクル外観

- 茨木市役所前の市民会館跡地エリアに令和5年11月26日に開館した新施設・広場。
- ホールや図書館、子育て支援、プラネタリウム、市民活動センター、芝生広場など、様々な機能を備えた複合施設。
- 公募と市民投票を経て決定した名称「おにクル」は、当時6歳の子どもが命名。まちなさまざまな場所で目にする鬼のキャラクター「いばらき童子」を見て、「怖い鬼さんも楽しそうで来なくなっちゃうところ」という意味を込めたといいます。
- 伊東豊雄建築設計事務所が設計を手掛けており、7階建ての各フロアを貫く吹き抜け空間「縦の道」が特徴的な建物。
- 施設の設計コンセプトは、“日々何かが起こり、誰かと出会う”。「縦の道」によってそれぞれの機能が混ざり合い、日々いろんなことがいろんな場所で起きていることが何となく五感で感じられる、誰もが過ごしやすく、訪れたいくなる「立体的な公園」のような場をめざしています。
- 平成27年12月の元市民会館の閉館以降、市民の皆様と対話を通じて導かれた市民会館跡地エリア活用のキーコンセプトは『育てる広場』。市は市民が「使いたくなる場」を提供し、使い方や活動等は市民自身で作り上げていく考え方のもと、様々な取組みを積み上げてきました。
- 令和5年11月26日の開館記念イベント「つぎのイロドリ」では、1日を通じておにクル館内及び前面の芝生広場を使って、おにクルを見ていただく、知っていただくための催しを多数実施。オープニングセレモニーや芝生広場でのプログラムでは市民によるオープニングイベント実行委員会が考えた企画を実現しました。



“縦の道”は、回遊するように7層のフロアをつなぎ、人に出会いをもたらします